

動画配信

ホスピス・緩和ケア市民フォーラム in 京都

「Zen から学ぶグリーフケアのエッセンス」

新型コロナウイルスの影響で集会が中止になりましたフォーラムですが、講師の先生による講演を録画するという形で皆様へ提供できることになりました。

是非、ご覧ください。



チョードー師 コーシン師 栗原氏

- テーマ：「A Contemplative Approach to Grief, Loss and Bereavement ;
グリーフ・喪失・死別悲嘆に対するマインドフルで熟考されたアプローチ」
- 講 師：コーシン・ペイリー・エリソン師
ロバート・チョードー・キャンベル師
(コーディネーター&通訳 栗原幸江氏)
- 企 画：株式会社 緩和ケアパートナーズ
- 協 力：ともいき京都
京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻 緩和ケア・老年看護学分野
(録画時間 52 分 / 2020 年 3 月 1 日撮影)



動画はホスピス財団ホームページへアクセスしてください。 検索

深謝のメッセージ

このたび COVID-19 の影響により「ホスピス・緩和ケア市民フォーラム in 京都：Zen から学ぶグリーフケアのエッセンス」の開催がかなわず、みなさまにお会いすることができなかったことを心より残念に思います。しかし財団のご厚意により、講義をオープンアクセスの動画にしてみなさまにお届けすることが可能となりました。これにより、この講義がより多くの方々のお役に立てたら幸いです。COVID-19 のために非常に先行きが見えなくなっている今この時だからこそ、人々が経験している喪失と悲嘆（グリーフ）をいつも以上に意識することがとても大切です。

喪失の現実というのは、私たちの人生においてさまざま形で常に存在するものです。しかし、私たちは必ずしもそれを振り返り、おさめていく機会がもてるわけではありません。危機的な状況において、また日々の暮らしの中で、一人ひとりがいかに平静でいられるかを学べる機会があるということは、きわめて重要です。先に何が起こるかわからないからこそ、私たちのいのちは常にかげがえのないものなのです。私たちには、今、この瞬間があります。悲嘆(グリーフ)も、喪失も、喜びも、

やさしさも、わけ隔てなく迎え入れることが、私たちが光栄にも、みなさまとわかち合える“まごころ”のあり様です。

私たちの今回の来日を支援してくださった日本ホスピス・緩和ケア研究振興財団に特に感謝申し上げます。今回の機会が、これから学びをともにするたくさんの方々の機会の始まりとなるようにと願います。

みなさまがしてくださったすべてことに深い感謝と敬意を込めて

コーシン・ペイリー・エリソン
ロバート・チョードー・キャンベル

今回動画配信という形になってしまったことを非常に残念に思います。しかしこれを機に、動画を通してより多くの方々にお二人のことを知っていただき、それが次回につながる縁となれば幸いです。

栗原幸江



お知らせコーナー

●ホスピス財団 第4回国際セミナー

[Whole Person Care 対話型ワークショップ]

- ・2020年9月19日(土) 大阪、9月20日(日) 東京
- 参加費：1000円(資料代)
- 詳細、申込み方法はホームページから。



●ホスピス・緩和ケアボランティア研修会

- ・2020年8月29日(土) 広島市 (広島YMCA国際文化ホール)
- ・講師：徳永進氏
- 詳細は後日、ホームページに掲載いたします。

●Whole Person Care ワークショップ

- 好評のWPCワークショップが本年も開催されます。
- ・コースI：2020年9月5日(土)
 - ・コースII：2020年9月6日(日)
 - ・会場：大阪コロナホテル
 - 詳細、申込み方法はホームページから

●ホスピス・緩和ケア
白書2020 発売中

- 特集テーマ：心不全の緩和ケア
心不全のパンデミックに備えて
発行所：青海社
3000円+税
お求めは書店で
(ホスピス財団賛助会員
には無料で送付しております)

●J-HOPE 4 (遺族によるホスピス・
緩和ケアの質の評価に関する研究4)
刊行

- 世界的に質の高い研究として国際的にも評価されている調査・研究が、この度J-HOPE4として纏められました。ホームページでも公開しておりますが、ご希望の方には1000円で頒布いたします。
(ホスピス財団賛助会員には無料で送付しております)



近刊紹介

中動態の世界

意志と責任の考古学

國分功一郎著

医学書院(シリーズ ケアをひらく)
2000円+税

アルコール依存症や薬物依存症は、本人の意志では解決しないと著者は言う。それは中動態という古代の文法に、その解決のヒントがあるのではと、今は消えて

しまった中動態の歴史を遡りつつ思索の旅を続けるという不思議な書物である。

著者は中動態を“主語がそれ自身の内にある状態”と定義し、能動態と受動態だけの世界、“する”と“される”の対立だけでは十分に理解が出来ない事象も多いと説いている。日本語を見ても、「生まれる」、「死ぬ」、「眠る」などの動詞は、能動態と受動態では説明できず、中動態をもって始めて理解できるという例は明確である。やや難解な書物ではあるが、医療の分野においても、新しい視座を与えるのではないかと思われる。



病室から見える、虹

こんにちは
ホスピス

総合病院

山口赤十字病院 緩和ケア病棟の紹介

緩和ケア科部長 上田宏隆 / MSW 橘 直子

当院緩和ケア病棟は、1992年わずか3床の緩和ケア病床としてスタート、2000年の新棟建設に伴い緩和ケア病棟を整え、20年の歩みを数えます。

緩和ケア病棟の運営には、病棟に携わるチーム多職種・ボランティアの協力に加え、各診療科からの協力も欠かせません。総合病院という母体を活かして、細やかな症状コントロールにも対応してもらっています。緩和ケア病棟へ変わった患者さんのもとへ、



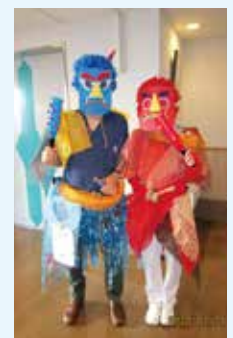
病棟内での訓練後ミーティングの様子

元の担当診療科の主治医が足を運んでくださる姿もよく見かけます。患者さんやご家族にとっては、まさにシームレスなケアが提供され、安心して過ごしていただけている

感想も寄せて頂いています。

当病棟では、開設以来、各病室に入室する際は靴を脱いでお邪魔します。これには衛生面だけでなく、患者さんにとって、もう一つの我が家とも言える病室というパーソナルスペースに土足で踏み込まない、という2つの意味があります。これは、お見舞いに来られるご家族などにもご協力頂いています。

また、病棟からは春には、当院近くの自衛隊駐屯地の桜が、夏には、同地で開催される夏の夕べの花火が、秋には、当院向かいにある小学校の運動会練習の光景と歓声が、冬には山口という盆地特有の寒さによる雪景色などを五感で感じる事が出来、患者さんのケアに繋がっていると感じています。



節分(緩和ケア科部長 着任まもないNs)

ホスピス財団 2020年度 事業計画書 (概略)

(2020年4月～2021年3月)

1. ホスピス・緩和ケアに関する調査研究事業 (公募)
2. 遺族によるホスピス・緩和ケアの質の評価に関する調査研究事業 (第5次調査・1年目)
3. 『ホスピス・緩和ケア白書 2021』
(特集テーマの概説+データブック)
4. 救急・集中治療における緩和ケアの推進
5. ホスピス・緩和ケアボランティア研修セミナー開催事業
6. Whole Person Care ワークショップ開催事業
7. 『MD Aware : A Mindful Medical Practice Course Guide』 翻訳事業
8. 「ともいき京都」におけるがん体験者・市民主体のプログラム創生事業
9. 緩和ケア・支持療法領域に関わる医療従事者向け意思決定支援に関する研修セミナーの開催
10. ホスピス・緩和ケアフォーラム開催事業
11. 一般広報活動事業
12. 『これからのとき』『旅立ちのとき』 冊子増刷
13. ホスピス財団 20周年記念講演会
14. International Congress on Palliative Care 学会参加
15. ホスピス財団 第4回 国際セミナー開催事業
16. APHN 関連事業
17. 日本・韓国・台湾・香港・シンガポール
第3期共同研究事業 (3年計画の2年目)

ホスピス財団 2020年度収支予算書 (概要)

2020年4月1日から2021年3月31日まで

(単位: 千円)

科 目	2020年度予算
【経常収益】	
①基本財産運用益	3,300
②受取寄付金	19,700
(内訳) 賛助会費収入	19,400
一般寄付金収入	300
③雑収益	1,100
経常収益計 (A)	24,100
【経常費用】	
①事業運営費	34,540
(内訳) ホスピス・緩和ケアに関する調査・研究事業	11,220
ホスピス・緩和ケア従事者に関する教育事業	9,940
ホスピス・緩和ケアに関する普及・啓発事業	6,360
ホスピス・緩和ケアに関する国際交流事業	7,020
②一般管理費	6,060
経常費用計 (B)	40,600
当期経常増減額 (A - B)	▲16,500

不足分は前期繰越金等で充当予定

寄付者一覧

(2019年9月～2020年2月 順不同、敬称略)

(団体) 阪神聖書研究会
遺愛女子中学校・遺愛女子高等学校
(株) コスモ興産

(個人) 藤田 光寛 坂倉 有紀
竹下 淳也 山田 泰久

新規賛助会員

(2019年9月～2020年2月 順不同、敬称略)

(個人) 野呂 幾久子 大谷 弘行
片山 博文 河内 ルミ
菅野 康二 渡辺 祥子

寄付・賛助会員のお願い

私たちの活動は、全て、皆さまからのご寄付と賛助会員の方々の会費に拠っております。どうか私どもの活動の趣旨をご理解いただき、ご寄付・賛助会員のお申し込みを頂けるようお願いいたします。

(税額控除の対象になります)

また、「遺贈」による寄付もぜひご一考下さい。当財団は、三井住友信託銀行と「遺贈による寄付制度」について提携しております。公益法人への遺贈に拠る寄付財産は、原則として相続税の非課税財産となります。

上記ご寄付、賛助会員、遺贈に関するお問い合わせは **06-6375-7255** です。

編集後記

目に見えないウイルスに震撼させられた初春であった。医療、介護の現場では大変なご苦労の日々であったと想像に難しくないが、関係各位の努力により新型コロナウイルスの一日も早い終息を願うものである。

ホスピス財団においても設立20周年という節目を迎えるそのスタートから、新型コロナウイルスの影響で、2月末のホスピス・緩和ケアフォーラムの集会は中止となった。しかしすでに来日されていた先生とコーディネーターの尽力で、無聴衆での講演が行われ、その動画がホームページから配信され、結果的にはより多くの方々に情報提供ができることとなった。

近刊紹介では、「中動態の世界」を取り上げられた。“する” “される” という能動態、受動態、の対立とは異なる位相である中動態なるものを知った。そして、ホスピス・緩和ケアにおいても、“寄りそう” こと、言葉を換えれば “Not doing but being” は、まさに中動態の世界ではないだろうかと思わされた。そこには何かを “する” “される” という価値観とは異なる場が存在し、医療者、患者さんが共に自らを内省し、共感することができる故に、双方が癒しへ、平安へと導かれるのではないだろうか。 (編集子)



富良野にて